

保護者の皆さま

豊能町立吉川小学校
校長 松浦 靖典

「令和5年度全国学力・学習状況調査」結果について

立冬の候、保護者の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素より、本校の教育にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、本年度実施の「全国学力・学習状況調査(6年生対象)」結果についてまとめましたので、報告させていただきます。なお、調査問題は文部科学省HPでご覧いただけますので、あわせてご確認ください。

1. 概要

今年度は、国語・算数の2教科の学力調査と学習状況調査がありました。本校の調査結果ですが、国語の平均正答率は全国平均・大阪府平均ともに上回りましたが、算数の平均正答率は、全国・府の平均正答率よりやや下回りました。この調査で得られる結果は学力の一部ですが、この結果を児童一人ひとりの課題分析に活用し、本校の授業改善に取り組んでいきたいと思っております。

2. 学力調査の結果(全国平均と比較して) ○⇒正答率が高い ●⇒正答率が低い △⇒無回答率が高い

① 国語

- ・ 「言語の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域において正答率が全国平均を上回りました。
- ・ 「かくこと」「よむこと」の領域においての正答率には課題が見られました。

○情報をどのように整理しているかについて適切な説明文を選択する 2三

「情報の扱い方に関する事項」

○敬語の使い方として適切なものを選択する 3三

「言語の特徴や使い方に関する事項」

●漢字に書き直す 1三(1)ウ

「言語の特徴や使い方に関する事項」

●資料に書かれている内容として適切なものを選択する 2一

「よむこと」

△漢字に書き直す 1三(1)ア、ウ

「言語の特徴や使い方に関する事項」

△米作り活動の問題点と解決方法を書く 1二

「かくこと」

【課題に対する取り組みについて】

- ・記述式の問題で無答率が高い傾向にありました。記述は児童の苦手意識が高く、正答率も低くなりがちです。国語科に限らず、日常の授業場面での問いに対する答え方や、授業の中で、文に書いて答えたり、まとめたりする指導を今後さらに増やしていく必要があります。
- ・漢字問題での間違いや無答も目立ちました。同じ読み方の違う漢字を選択する誤答もありました。毎日の宿題でも取り入れるなど、どの学年でも漢字の習熟には取り組んでおりますが、文意を捉えた上で漢字を選び、書くことができるような力を育成するために、文中で漢字を使っていく指導の充実に取り組んでいきます。
- ・国語科以外の教科でも「自分の考えを書く」「自分の考えを自分の言葉で発表する」など表現活動には意識的に取り組んでいます。授業の振り返りや宿題での作文・日記・自主学习など、自分の考えを持ち、自分の言葉で文章を作る活動を行っていきます。

② 算数

- ・「変化と関係」「データの活用」の領域において正答率が全国平均を上回りました。
- ・「数と計算」「図形」の領域においての正答率には課題が見られました。

○示された基準と比較量から、割合を選ぶ	4 (1)	「変化と関係」
○全部の数を求める計算をする	1 (4)	「数と計算」
●わり算の筆算の説明図から、十の位にあたる式を選ぶ	3 (4)	「数と計算」
●できあがった四角形の名前とその四角形の特徴を選ぶ	2 (1)	「図形」
●表の説明文を完成させるための正しい数を選ぶ	1 (2)	「変化と関係」
△二つのグラフからわかることを、言葉と数を使って書く	4 (3)	「データの活用」
△できあがった図形の角の大きさや、面積の大小について書く	2 (3)・(4)	「図形」
△全部のファイルを棚に入れることができるかを判断する	3 (2)	「数と計算」

【課題に対する取り組みについて】

- ・計算問題に関しては無答も少なく正確にできる児童が多いです。一方でわり算など計算はできていても、その過程の意味が理解できていないこともあるようです。式の意味を理解し、それを説明することができるような学習展開をすすめていく必要があります。
- ・グラフの読み取りや情報と関連付けた変化の読み取りに課題が見られました。算数に限らず、理科や社会科においても、グラフから数値の変化や情報を読みとることによって、考察し説明できることを意識した指導を行っていきます。
- ・図形については、形による意味や性質の違いについて考え、想像したうえで表現できるように、これまで習得した知識を整理する必要があります。作図の正確さだけを求めるのではなく、言葉で形の特徴を伝えたり、具体物を用いたりすることで、実際に図形がどのように形づくられていくのか体感的に習得できるような授業づくりに努めていきます。

3. 学習状況調査の結果（全国平均と比較して） ○⇒肯定的回答が多い項目
●⇒肯定的回答が少ない項目

① 学校生活について

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- 学校に行くのは楽しいと思いますか
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めていますか
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

② 学習について

- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 5年生までに受けた授業では、問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- 国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか

③ 自分のことや生活について

- 朝食を毎日食べていますか
- 将来の夢や目標を持っていますか
- 読書は好きですか
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか
- これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか

【主な特徴と今後の取り組みについて】

① 学校生活について

- ・「学校に行くのは楽しいと思う」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目への肯定的回答が多い反面、「先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目への肯定的回答は少なくなっています。学校や学級集団への安心感はあるものの、教職員に相談しようというまでには至っていないように思われます。教職員が自ら学年を問わず常に児童の思いに耳を傾け、一人一人の児童との信頼関係を築きながら、誰もが安心できる居場所のある学校づくりをすすめていきたいと考えます。
- ・他者との意見の相違について、自分の考えを言ったり、学級の中で話し合いをしたりする活動には消極的な傾向がみられます。また自分の考えに自信が持てず、みんなの前で表現することは苦手と感じているようです。それゆえに悩みを抱えている児童も少なからずいると思われます。子どもたちが自ら考え行動できるような活動や、クラスでの集団づくりや異学年との交流を積極的に展開していく中で、周りの人から「認めてもらった」「感謝された」という経験を少しでも多く積み、自尊感情を高めるとともに、意見交流をしながら相手の立場も考えられる心を養っていけるよう実践していきたいと思えます。

② 学習について

- ・文章を書くことや話し合い活動などに課題があると感じているようですが、教科の学習は大切であり、将来にも役立つと理解しているなど、学習活動には前向きに取り組みたい気持ちがうかがえます。基礎学力を充実させ、学んだことが自分の力になり、活用することができたと実感できるような活動を展開し、児童の学習に対する前向きな気持ちを継続していけるよう学校全体として取り組んでまいります。
- ・本校でもPC・タブレットを使って、調べ学習をしたり、意見を発表したり交流したりする学習活動は増えています。高学年の英語学習において発音ツールを取り入れるなど、新しい取り組みも始めています。児童が学習道具の一つとしてICTを日常的に使ったり、勉強の役に立つと感じたりできるような活用を、より一層すすめていきたいと思えます。

③ 自分のことや生活について

- ・「普段1時間以上学習する割合」は全国に比べて低めの傾向が見えます。設問には学習塾等の時間も含むとあり、習い事の有無にも左右されると思いますが、読み書き計算といった基礎的な宿題の他にも、自主学習ノートなど子どもたちが主体的に学習できる課題を継続していきます。
- ・ほぼ全員が将来の夢や目標をもつなど、今後の社会生活について見通しをもっていますが、地域社会や他国の人とのかかわりには消極的な傾向が見受けられます。「とよの未来科」の学習活動をすることによって、地域の良さを知り、地域や社会をよくするために、自分たちでできることを考える機会をつかっていきたいと思えます。またコロナ禍においてしばらく実現できなかった地域の方がたとの交流を、今年度から再開していこうと考えています。地域の方と一緒に学んだり、お話をさせてもらったりする活動を通して、人とのかかわりを大切に思う心を育てていきたいと思えます。

※令和5年度 全国学力・学習状況調査 の問題については、文部科学省 国立教育政策研究所のホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。また豊能町全体の分析結果については、町ホームページに掲載されています。